

令和7年度第1回志免町総合教育会議 会議録

1 日時 令和8年2月26日(木) 10時00分～11時00分

2 場所 第2会議室

3 出席者

(町長及び教育委員会)

| | | | |
|----------|----|-----|-------|
| 町 | 長 | 世利 | 良末 |
| 教 | 育 | 長 | 金子 眞恵 |
| 教育長職務代理者 | 執行 | 喜砂雄 | |
| 委 | 員 | 牟田口 | 朱美 |
| 委 | 員 | 藤原 | 愁子 |

4 町長挨拶

令和3年度に策定した教育大綱については、対象期間である5年が経過した。

本日は、令和8年度から開始する新たな教育大綱の策定に向け、教育委員会の皆様と協議を行いたいと考えている。

今回提示している大綱(案)は、国の第4期教育振興基本計画の方向性を踏まえつつ、本町の教育を取り巻く実情や、これまでの施策の成果及び課題を基に作成したものである。本日の協議を通じ、内容について十分に意見交換を行い、新たな教育大綱をスタートさせていきたい。

今後とも、教育委員会の皆様と連携を密にしながら教育行政を推進し、志免町の教育の充実と発展に向けて取り組んでいきたい。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

5 議事

(1) 志免町教育大綱について

執行委員 教育においては、学力や点数のように数値で示せるものだけでなく、協力する力や話し合いを通して学ぶ姿勢、学習活動をやり遂げたという達成感など、点数では表しにくく評価が難しい要素も重要である。そうした視点をもって、教職員が児童生徒と関わりながら学習活動を進めていくことが、非常に大切ではないかと考えている。

子どもの教育は学校だけでなく、保護者や地域が一体となって取り組むことが重要である。志免町においては、コミュニティ・スクールの取組が進められ、学校と地域が連携した様々な活動が行われている。学校から地域への働きかけがあるとともに、地域から学校への協力も見られている。

一方で、地域活動の担い手は高齢者が中心となっており、子育て世代は仕事等の事情から参加が難しい状況もある。今後、地域活動を継続していくという点では、課題があると感じている。

コロナ禍により入学式などが実施できなかったこともあり、子どもたちが自分たちで入学式を行おうと、資金づくりに取り組んだり、地域の

祭りに参加したりする場面があった。子どもたちが学校の中だけでなく地域に出て活動したことで、地域の方々の目に触れ、様々な協力を得ることができた点は、非常に良かったと感じている。

成人式では参加者が落ち着いており、礼儀正しい印象を受けた。成人式の間を活用し、志免町の現在の取組や魅力、文化や行事などを紹介することで、若者のふるさと意識をより高める工夫ができるのではないかと考えている。

教育長 わが町しめを愛するふるさと意識の高い子どもたちを育てたいという思いをこれから5年間の取組を通じて一貫して進めていきたい。まずは、この町の学校に通ってよかった、過ごせてよかったという、学校や地域で安心して毎日を過ごせた思い出を作れるように。それから一人ひとりに合った学びに応じて、しっかりと毎日積み重ねられたという実感を得られること、あるいはこの街で生かされているという実感を持てるように。地域の方々に生まれながら自分の力を発揮し、良さを十分に生かしながら、この街で生きているという実感を持った思いを重ねた子どもたちは、ふるさと意識が高く、この街に住んでよかったと思える大人になり、成人式でもそんなことを思ってくれるようになると思う。

教育の多様化が進む中で、一人ひとりのニーズに応じた教育支援を行い、誰もが取り残されない教育を進めることがこれからの5年間とても大切になっていく。

執行委員 自分が生まれ育った町がよかったと思うのには、小学校や中学校でもいい思い出があるから。あのとき勉強して、きつかったけど、思い返したら楽しかったと。

町長 成人式もここ10年ほどだいたい同じ内容だが、提案のように志免町の今の風景や町の祭り、弓道場でやっているものなど、紹介する場面、アピールできる場面があるといいと思う。今後の参考にさせていただく。

藤原委員 基本方針3 学校・家庭。地域の連携、協働の推進において、コミュニティ・スクールがあるが、地元の声として、学校からの声掛けで子どもの地域行事への参加が増えた。先生から参加人数の連絡があり、地域として心強く、子どもたちがこんなにかという声があった。学校との関係ができたことが、とても嬉しかったと町内会長が話されていた。高校生の参加について、地域でも考え、夏祭りで同窓会をしようと声掛けをしたが、来てくれる子は来るが、関心がない子は来ない。地域からの発信も大事だなと感じている。学校からの発信が心強い。

町長 町内会の餅つきに参加しているが、東区では高齢者から子ども、高校生も含めみんなが参加される。町内のイベントに校長先生や教頭先生が参加していただくのは本当にうれしく、子どもたちにとって励みにもなる。地域と学校との連携について、だいぶ以前と違った姿が見えてきている。ぜひ地域との連携を続けていければと思う。

牟田口委員 支援学級が増えてきており、みんなと一緒に同じ作業ができず、勉強は難しいということを感じている子どもにも、志免町は細かく対応してくれるという町であるという認識があるようで、福岡市から引っ越してくる方がいる。個別に応じた教育システムの構築、1人も取り残さない方針でされていて心強い。同じ授業であっても、理解の程度には個人差があり、取り残さない教育と力を伸ばす教育の難しさが学校現場には多いと思われる。

町 長 昨日、中学校に行った際に道場での授業風景を見たが、体育の授業において、電子黒板を活用した指導が行われており、動きを視覚的に確認できることで理解が深まっていた。学習理解の差を補う有効な手段であり、今の技術を活用した教育につながっている。一人ひとり取り残さないというのは課題であり、こういった方向性で学校の先生たちに指導してもらうか、今後も学校と教育委員会も含めて永遠の課題ではないかなと思っている。

(2) 教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画

町 長 先ほど課長から説明があったとおり、プール事業については、4月からすべて民間委託としている。教職員が本来担うべき業務に専念できる環境を整えるためのものである。

しかしながら、現状としては、教職員が次の日の授業に向けて事前に十分なシミュレーションを行い、明日の授業をどのように進めるかと考える時間がなかなか確保できていないのではないかと感じている。業務の増加や価値観の多様化により、子どもたちの生徒指導に関わる時間が増えている状況が見られ、特に中学校においてその傾向が強いと考えられる。令和6年度において、教職員の時間外勤務が多くなっているのは、健康管理の観点からも、非常に憂慮すべき事項であると認識している。

執行委員 部活動は外部委託や地域指導者の活用が進んではいるものの、教員が担当する場合は、決められた時間を超えた指導や準備が発生し、土日の対外試合など家庭生活への影響も大きい状況が続いている。専門外の部活動を担当しながらも、熱心に取り組む教員の存在は非常にありがたい一方、この体制が長く続くことには限界も感じられる。また、授業準備についても時間内に終えることは難しく、時間外勤務が減っているように見えても、実際には持ち帰り仕事が増えている可能性があるのでは。授業資料や指導方法を各学校で工夫しながら共有し、学校別だけでなく、教科や校種ごとに共有することで負担軽減が期待される。

町 長 先生方の働き方改革は進んでいるが難しい面もあり、部活動では外部委託の流れがある一方で、自分の経験したスポーツを子どもたちに教えたいという思いを持ち、部活動を指導したい先生もおられる。しかし実際には時間外の指導が非常に多く、管理の面から見ても大変な状況だと感じる。教員は大学卒業後すぐに現場に立たされ、先輩から段階的に学

ぶ余裕が少ない中で苦勞しており、経験を積んでも生徒が変われば指導方法も変えていかなければならない難しさがある。

執行委員 自分が新任だった頃は今ほど厳しくはなかったものの、指導案づくりでは理由も分からないまま書き直しを求められるなど苦勞があった。今は指導が細かくなり改善している面もあるが、一方で新任教員が1年目で辞めてしまう例も見られる。良い先生とは、子どもときちんと話ができる先生であり、それが信頼につながる。

総務課長 働き方改革の観点から見ると、教員、とりわけ中学校教員は事務量が多く負担が大きい職業である。時間外勤務についても小学校は月19時間、中学校は月37時間とかなりハードな職業。月40時間を超える教員や、月80時間に達する教員も中学校では一定数おり、体調や精神面への影響、ひいては退職につながるものが懸念される。行政としてもできることを行い、いろんな実効性のある対策を講じていく必要があると感じている。

町長 教職員を志す人は子どもたちの今を大切にしたいという強い思いを持っているが、現場に出て理想との違いから早期に辞めてしまう場合もある。働き方改革を着実に進め、教職員を一人の人間として大切にし、家庭生活や余暇とのメリハリを確保することが必要である。今後も学校現場と十分に話し合いながら進めていきたい。